

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103805
法人名	医療法人 福井整形外科麻酔科
事業所名	グループホームふくい
所在地	松山市高井町795-1
自己評価作成日	平成25年12月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

母体である、医療法人福井整形外科麻酔科と日常的に連携を図っており、健康面では些細なことでもすぐに相談し、早目の対応が取れるようになっている。出来ていることが継続されるようにリハビリにも積極的に取り組んでいる。また、日常生活の中で、利用者様と職員が共に生きていく生活の場となるように日々コミュニケーションを取るようになっている。毎日笑顔を決めず、心穏やかに楽しく生活出来るように一人一人ではなく、みんな一つにまとまって介護に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「帰りたい」気持ち強い利用者について、ご家族と相談し職員が送迎して、外泊できるよう支援された事例がある。その後も、月1回外泊を続けておられ、ご自宅に戻る機会をつくることで、ご本人の落ち着いた暮らしにつながっている。外泊から戻って来られると、ご自宅での楽しかったお話を職員に聞かせてくださるようだ。「昔住んでいたところに行きたい」と希望する利用者がおられ、一緒に出かけてみたこともある。利用者はうれしそうなお様子で、その後も何度もその時のお話をされるようだ。
食材の買い物や月2回は、外出や外食できるよう支援されている。「麺類が食べたい」と、利用者から希望があり、近くのうどん屋に出かけることもある。母体病院へリハビリに通院した帰りには、個別の買い物をされたり、近くのコンビニにおやつを買いに行く等されている。今後、男性利用者や男性職員で、近くの温泉に出かけることを計画されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームふくい

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 栗林 愛

評価完了日 H25 年 12 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	(自己評価) 毎月、ミーティングで読み、覚え実践出来るようにしている。	
			(外部評価) 管理者は3年前に、「みなが覚えやすい理念をつくってはどうか」と職員に提案され、みなで話し合っ「心に寄り添える生活ライフ」と事業所の理念をつくられた。さらに、理念が実践につながるよう、「安全で楽しい生活」「笑顔で思いやりの気持ちを持つ」「皆でともに生きよう」「社会とのつながりを大切にしよう」と具体的に示されている。理念は、職員ミーティング時に唱和し、職員は誰もが言えるようになっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームでの行事には参加して頂き、地域の行事にも参加しているが、日常的な交流は取れておらず、利用者が地域とのつながりは少ないように思う。	
			(外部評価) 近くの鮮魚店に買い物に出かけると、店の方や買い物に来る地域の方達が声をかけてくださる。近所の方から野菜をいただいたり、風が強い日には「自転車が倒れているよ」と声をかけてくれる等、気にかけてくれており、事業所から時には、いただきもののお菓子をおすそ分けする等しておつきあいをされている。事業所主催のバザー時には、300枚の案内チラシを配り、回覧版でも回してもらって盛大に行われている。バザーには、地域の方が提供してくれた野菜や、利用者が作ったペン立て等も販売された。地域の夏祭りを利用者は楽しみにしており、全員で出かけて地域の方達と一緒に盆踊り等を楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の中で、事業所の活動報告や内容を伝えているが、理解を深めていけるところまで至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			サービスの実際や評価の取り組みなど状況説明は出来ている。また、意見など聞き、活かしている。	
			(外部評価)	
			会議は、防災訓練、バザー、バーベキュー等と併せて行い、ご家族や地域の方が参加しやすいように工夫されている。利用者が参加する際には、普段の暮らしについて感想を話して下さるようだ。	管理者は、「今後、さらに会議に工夫が必要」と話しておられた。今後さらに、会議をケアサービスの質向上への取り組みにつなげていけるよう、会議の開催時間や内容、メンバー等について会議の議題にあげる等して、みなと相談されてみてはどうだろうか。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者の状況など、日頃から連絡を密に取り、出来る限り連携を図れるよう努めている。	
			(外部評価)	
			地域包括支援センター主催で3ヶ月に1回、地域内のグループホームが集まり、勉強会を開催しておられ、管理者が事前に相談してテーマを決め、学び合っておられる。12月には「看取りについて」の勉強会を行われた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束の勉強会を行い、理解出来るようにしている。玄関の施錠は夜間のみになっている。出来るだけ身体拘束をしないケアを行うようにしているが、必要な方に対しては家族に同意を得て必要時のみしている。	
			(外部評価)	
			玄関は、利用者が自由に出入りできるよう開放されている。職員ミーティングでも身体拘束について話し合い、又、勉強会を行い、拘束をしないケアに取り組んでおられる。言葉のトーンや気になる対応が見受けられた時には、管理者が注意をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			勉強会は行っている。 職員同士でも注意しており、全身チェックも行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価)	
			全職員が学べてはいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約書に沿ってゆっくり説明し、具体的に例を挙げながら行えていると思う。途中で疑問点を尋ねるようにしたり、質問に答えながら納得した上で契約を締結している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者からの意見は、日々のケアの中で聞くことが出来る。家族などの意見は、電話や手紙、来訪時などで少しずつ聞き出す努力はしている。しかし、全員ではないのもっと聞き出す努力は必要だと思う。	
			(外部評価)	
			毎月、利用者の暮らしぶりや職員の異動については、「ふくいだより」に載せて、ご家族に報告されている。又、管理者は、ご家族の来訪時には「困っていることはないですか？」等と、要望を聞くように取り組まれている。今後は、来訪することが難しいご家族との関係を深める取り組みをすすめていきたいと考えておられた。利用者がおこづかいを使う時は、事前にご家族の了解を得るようにしており、又、ご家族の来訪時に確認していただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ全体が集まる機会が少なく、ミーティングなど設けられているが、十分ではないと思う。 個々が意見や考え、思いなどあると思うが全ては把握しきれていない。	
			(外部評価)	
			月1回のミーティング時に、日々のケアを確認して意識統一を図っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個々が別々に職務を行い、コミュニケーション、情報交換など不足し十分ではない。聴いてもらう機会を増やしてもらいたい。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修や講義など参加させてもらっているため、職務以外でも学べていると思う。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			交流の機会はあるが、同グループの他施設のスタッフとの交流も少なく、もっと交流できる機会を作ってもらいたい。 サービスの質を向上させる為にも情報交換など持ちたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			出来る限り、利用開始前に情報収集したり、ホームへ見学に来てもらったりして、安心出来る環境づくりが早く出来るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前や契約時にゆっくり話す時間を設け、今後の生活の意向は手紙などで聞き出せるよう努めている。また、出来るだけ不安が少ないように心掛けている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居できる状況ではないので、申し込みや利用の相談時に他サービスの利用など今出来る事の支援を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 基本理念にも掲げているように、心よりそえる生活を、日々実践できるよう関係作りに努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人とご家族の絆を大切に連携を取りながら支えていけるよう支援している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者全員、個々の馴染みの人や場所の関係を継続していくのは難しいと思う。	
			(外部評価) 「帰りたい」気持ち強い利用者について、ご家族と相談し職員が送迎して、外泊できるよう支援された事例がある。その後も、月1回外泊を続けておられ、ご自宅に戻る機会をつくるのがご本人の落ち着いた暮らしにつながっている。外泊から戻って来られると、ご自宅での楽しかったお話を職員に聞かせてくださるようだ。「昔住んでいたところに行きたい」と希望する利用者がおられ、一緒に出かけてみたこともある。利用者はうれしそうな様子で、その後も何度もその時のお話をされるようだ。ご家族やお孫さんが来訪された時は、お茶等をお出しして、ゆっくり過ごせるよう気遣いされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士の関係を出来るだけ把握し、何かある場合は職員が間に入り孤立しないよう支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			契約が終了しても、バザーへの参加や季節の挨拶の交換をしたり、相談に応じられるような関係が保たれるように心掛けている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			一人一人の暮らし方の希望や意向の把握は、なかなか出来ていない。	
			(外部評価)	
			センター方式の「24時間生活変化シート」を用いて日々のケアを記録し、利用者のその人らしい生活を知ることに取り組まれている。「買い物に行きたい」「手芸をしたい」等、言葉で自分の希望を示す利用者については、ゆっくりお話を聞くことに努め、意向を表しにくい利用者からは、表情から組み取ったり、日々の生活記録の中から思いや意向の把握に努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			これまでの情報や馴染みの暮らし方など把握するよう努めているが、全利用者は出来ていない。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			状態や行動、発言などしっかり観察し、またスタッフ間で情報共有するよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			カンファレンス等で一人一人が意見を出し合い、利用者、家族の思いを反映し、計画を実行していけるよう努めている。	
			(外部評価)	
			要望を示すことができる利用者とは話し合い、難しい利用者については、ご家族から意向を聞き取る等して、介護計画を立案されている。計画の中から1項目を選び、「ケアチェック項目表」をつくり、毎日モニタリングして、担当者がコメントする仕組みを作っておられ、3ヶ月毎に職員全員で評価して見直しにつなげておられる。毎日、牛乳と新聞を2階ユニットに届けることが役割になっている利用者を支援する計画があった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日誌や申し送り等で、一人一人の生活や状態を話し合っていく事が大切であり、実践に繋げていけるよう努めている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			その都度、ニーズに応えられるように色々な可能性を含めて話し合いが出来るよう心掛けている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源の活用には至っていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係 を築きながら、適切な医療を受けられるように 支援している	(自己評価)	
			上司任せにはなっているが、適切な医療を受けられるようき ちんと出来ていると思う。	
			(外部評価)	
			利用者のほとんどが、週2回母体病院へリハビリに通院され ており、又、往診は月1回あり、いつでも看護師に相談した り、対応してもらえるようになっている。月1回、歯科医の往診 もある。以前からのかかりつけ医を受診される場合は、ご家 族や職員が支援されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			しっかり、利用者の状態や経過を伝えていけるよう努めてい る。	
			(外部評価)	
			入院時、病院関係者にホームでの様子を伝え、関係作りが 早く出来るようにしている。 また、身の回りの物を持参し、少しでも安心して頂けるよう努 めたり、出来る限り訪問し情報共有に努めている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めている。 または、そうした場合に備えて病院関係者 との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時、病院関係者にホームでの様子を伝え、関係作りが 早く出来るようにしている。 また、身の回りの物を持参し、少しでも安心して頂けるよう努 めたり、出来る限り訪問し情報共有に努めている。	
			(外部評価)	
			早い段階で利用者、ご家族と話し合い、思いや意向をお聞 きしている。状態の変化に伴い、その都度話し合い医療機 関とも連携を図っている。スタッフも出来る事の確認をし、思 いをくみ取れるよう方針の共有に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、 事業所でできることを十分に説明しながら方針 を共有し、地域の関係者と共にチームで支援 に取り組んでいる	(自己評価)	
			早い段階で利用者、ご家族と話し合い、思いや意向をお聞 きしている。状態の変化に伴い、その都度話し合い医療機 関とも連携を図っている。スタッフも出来る事の確認をし、思 いをくみ取れるよう方針の共有に努めている。	
			(外部評価)	
			母体病院の医師より必要に応じて、ご家族へ状態説明が行 われており、終末期のあり方についても話し合われている。 現在、ほとんどの利用者、ご家族が「ホームで最期まで見て ほしい」と希望されており、往診可能な内科医とも連携して支 援されている。昨年、看取りを支援された際には、最期の日 までおにぎりを食べ、お風呂は、床にマットを敷き、身体を洗 い、浴槽で温まれるよう支援された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、昼夜問わずDrや責任者へ連絡が取れるような体制作りになっている。しかし、状態を的確に報告出来ていない事もある。ミーティング等で対応の仕方など勉強しているが、定期的に行う必要があると思う。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防、民生委員、町内の方と共に避難訓練を定期的に行っている。緊急連絡網を作成し、実際連絡を廻し時間計測をしたり、動きの確認等しているが、大きな災害時には交通手段や集まれる人数等不安がある状態である。	
			(外部評価) 1月・10月に日中の火災を想定した防災訓練を実施されている。避難経路の確認を行ったり、職員は実際に通報訓練や誘導等も体験された。近隣5件の方には、火災時に協力していただけるようになっているが、訓練への参加は今後の取り組みとなっている。	管理者は、災害時の対応について、「地域の方をお願いしたいこと」、「事業所が地域にできること」等を今後、話し合っていきたいと考えておられた。いざという時に地域の方々と助け合えるよう、事業所の有用性を地域に発信していかれてはどうだろうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 対応や言葉かけが適切かどうか振り返る機会としてカンファレンスを設けている。トイレや浴室など利用者の気持ちに配慮するよう心掛けている。	
			(外部評価) 言葉かけや対応について勉強会を行ったり、管理者は、職員ミーティング時等に、利用者との馴れ合いにならないよう、話しておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉だけでなく、表情や反応を注意深く捉えるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			個々の生活のリズムが優先できるよう支援している。職員やホームの都合で対応出来ない時は、事情を説明し理解して頂けるよう支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			地域との交流、外出の機会など自然に身だしなみに気を使ったり、おしゃれをしたい気持ちになるような機会を作り支援している。また、選ぶ楽しみや自由も尊重している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			季節の食べ物を取り入れ、美味しく食事ができるようにしている。利用者の希望は取り入れているが、一緒に食事は出来ていない。出来る調理作業はお願いして頂いている。	
			(外部評価)	
			週2回、職員が利用者のリハビリの送迎を支援する日は、食事は配食やお弁当を利用している。2階ユニットでは、食前に口腔体操を行ったり童謡を歌う等しておられる。調査訪問日は「節分」で、職員は、巻きずしを食べる前に、利用者に「今年の恵方は、こちらですよ」と、南南東の方角を指さして伝えておられた。利用者は野菜の皮むきや、下膳、食器拭きを行うこともあるようだ。ご家族の来訪時には「一緒にいかがですか」と声をかけ、利用者と一緒に食事する機会をつくっておられる。	できるだけ利用者の好みを採り入れたメニューに努めておられるが、管理者は現在、決まったメニューになっているのではないかと感じておられる。又、「野菜嫌いな利用者が多い」ようだが、バランスのよい食事を提供できるよう、ご家族や運営推進会議メンバーに相談や助言をもらってはどうか。食事等を工夫して便秘解消等にも取り組まれてはどうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			日々の申し送りによって、一人一人の体調管理に心掛け、量・形態・バランス・水分量等に気をつけている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			毎食後は出来ていないが、朝・夕は必ず行っている。一人で出来ない方の口腔ケアは念入りに行っているが、出来る方は本人任せになっているので、最後の仕上げはスタッフがもう一度確認できるようにしていきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意を自発的に声かけして下さる利用者はすぐ誘導し、出来ない方は数時間おきに声かけや誘導を行い、出来るだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。しかし、夜間はオムツ対応の方が多い。	
			(外部評価) 排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを知り、昼間はトイレで排泄できるように支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘にならないよう個々にあったサイクル表を作成し、出して頂けるよう支援している。また、飲み物や繊維の多い食品など取り入れている。散歩やマッサージ、ホットパックなども活用し、自然排便になるよう支援している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日の体調によって変更する事もあるが、希望者には気持ちよく入浴して頂いている。また、入浴時には特にスタッフとの距離も縮まるので楽しい話題でコミュニケーションを図っている。	
			(外部評価) 週2回入浴できるよう支援されている。希望があれば、それに沿った支援に努めておられる。一人ひとりに湯を張り替え、好みの入浴剤を選び、入浴を楽しめるよう支援されている。季節に応じて、ゆず湯等も楽しまれている。身体の拘縮があり、浴槽に入れない利用者もおられるが、今後は、系列有料老人ホームの入浴設備を利用できるようになる予定である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に応じて声かけし、休んで頂けるよう気をつけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			服薬時は、スタッフ同士で確認し、利用者の前で名前、日付を確認し服薬して頂いている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			散歩など外に出る機会を増やし、気分転換出来るよう努めている。利用者によっては、買い物等行かれ、楽しい日々を送れるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			毎月計画を立てお出掛け出来ている。ご家族とも連絡を取り協力しながら出掛けられるよう支援出来ている。	
			(外部評価)	
			食材の買い物や月2回は、外出や外食できるよう支援されている。「麺類が食べたい」と、利用者から希望があり、近くのうどん屋に出かけることもある。母体病院へリハビリに通院した帰りには、個別の買い物をされたり、近くのコンビニにおやつを買いに行く等されている。今後、男性利用者と男性職員で、近くの温泉に出かけることを計画されていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			希望に応じ、職員と一緒に外出し、使えるようにしている。お金の所持も希望に応じ支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			利用者の希望があれば、電話するようにしている。また、利用者と相談しながら手紙なども出している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			馴染みの物を置いたり、季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、ぬり絵など飾り、楽しい空間になるよう支援している。	
			(外部評価)	
			冬場は室温を24度に設定されている。調査訪問日は「節分」で、利用者は、鬼の面をかぶった職員に、「鬼は外」と豆を投げて玄関から鬼を追い払っておられた。その後は、年の数をお聞きしながらみなで豆を食べておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			利用者の過ごしやすい場所を提供したり、利用者同士でお話が出来よう支援している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			利用者の使いなれた物や好みの物を活かして、居心地よく生活出来るよう配慮出来ている。	
			(外部評価)	
			ベッドは備え付けとなっており、そのほかは自由に持ち込めるようになってきている。ギターや漫画本、趣味の本を持ち込まれていたり、調査訪問時には、利用者が4年間続けて書いている日記を見せてくださった。手芸の得意な利用者からプレゼントされた作品を大切に飾っている居室も見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			一人一人の状態や状況に合わせて、安全に生活出来るよう環境づくりに努めている。また、出来ることをして頂き、少しでも自立に向けた生活が送れるよう支援している。	